

系列	授業科目	1年次		2年次	
		前	後	前	後
教 養 科 目	児童文化論		2		
	対人コミュニケーション			2	
	いきものと環境	2			
	日本国憲法				2
	コンピュータ演習	2			
	保育基礎ゼミⅠ	1			
	保育基礎ゼミⅡ		1		
	英語コミュニケーション	1	1		
	健康・スポーツ科学演習Ⅰ	1			
	健康・スポーツ科学演習Ⅱ			1	

系列	授業科目	1年次		2年次		
		前	後	前	後	
専 門 科 目	A 保 育 の 本 質 ・ 目 的	保育原理	2			
		教育原理		2		
		子ども家庭福祉				2
		社会福祉	2			
		子ども家庭支援論			2	
		社会的養護Ⅰ		2		
		保育者論				2
	B 保 育 の 対 象 の 理 解	発達心理学	2			
		子ども家庭支援の心理学				2
		教育心理学		2		
		子どもの理解と援助			1	
		子どもの保健	2			
		子どもの食と栄養Ⅰ			1	
		子どもの食と栄養Ⅱ				1
		幼児理解と教育相談			2	

専門科目	C 保育の内容・方法	教育課程論				2
		保育内容総論	2			
		子どもと健康	1			
		子どもと人間関係		1		
		子どもと環境		1		
		子どもと言葉	1			
		子どもと表現	1			
		幼児教育方法論	2			
		乳児保育Ⅰ	2			
		乳児保育Ⅱ			1	
		特別支援教育			1	
		障害児保育	1			
		こども音楽療育概論		2		
		子どもの健康と安全			1	
		社会的養護Ⅱ				1
		子育て支援				1
		音楽Ⅰ	1			
		音楽Ⅱ		1		
		造形表現		1		
		幼児体育		1		
		「子どもと健康」指導法			1	
		「子どもと人間関係」指導法				1
「子どもと環境」指導法				1		
「子どもと言葉」指導法		1				
「子どもと表現」指導法		1				

系列	授業科目	1年次		2年次		
		前	後	前	後	
専門科目	D 保育・教育実習	保育所実習Ⅰ		2		
		施設実習Ⅰ			2	
		保育所実習Ⅱ			2	
		施設実習Ⅱ				
		教育実習Ⅰ		2		
		教育実習Ⅱ				2
		実習指導Ⅰ	1			

専 門 科 目	D 教 育 実 習 保 育 ・	実習指導II		1			
		実習指導III		1			
		実習指導IV			1		
		実習指導V					
	演 出 合 演 総 出 合	保育・教職実践演習（幼稚園）			1	1	
		キャリア形成演習				1	
	そ 指 導 ち と a群	乳幼児心理学			1		
		乳児保育指導技術				1	
		障害児保育指導技術				1	
		あ 表 現 び と b群	子どもの動きとリズム			1	
			子どものあそび文化				1
			子どもと造形			1	
		か 自 然 だ と c群	自然体験実習Ⅰ			1	
			保育と環境教育			1	
			健康科学実習				1
		レ ク リ エ ー シ ョ ン レクリエーション	レクリエーション概論	2			
	レクリエーション実技			1			
	こ ど も 音 楽 療 育 士 こども音楽療育士	こども音楽療育演習			1		
		こども音楽療育実習			1		
	ライ キ ャ ン パ イ ン ス ト ラ ク タ ー ライクンヤタスポート	自然体験実習Ⅱ		1			

- (注)
1. 保育士資格を取得しようとする者は、保育士必修科目に加え、保育士必修の欄の（ ）のついている科目の中から6単位以上を選択履修しなければならない。その際、原則として特別科目a～c群の中からいずれかの群を選び、3単位以上を履修すること。
 2. 備考欄の※1の科目については、全員受講することができる。
 3. 社会福祉主事任用資格を取得しようとする者は、保育士資格に必要な科目を選択履修しなければならない。
 4. レクリエーション・インストラクター資格を取得しようとする者は、必修科目に加え次に掲げる要件を満たさなければならない。
 - (1) レク必修の欄の()のついている科目の中から2単位以上選択履修すること。
 - (2) レクリエーション協会の事業（学外実習）に2回以上参加すること。
 5. 備考欄の※2の科目を履修したもののうち、希望するものは「自然体験活動指導者」の登録を行うことができる。
 6. 備考欄の※3の科目を履修したもののうち、希望するものは「キャンプインストラクター」の登録を行うことができる。
 7. こども音楽療育士資格を取得しようとする者は、必修科目に加えこども音楽療育士必修の欄の（ ）のついている科目の中から16単位以上選択履修しなければならない。
 8. 学生生活を有意義にするために、「カレッジアワー」の時間を週2時間設ける。